

「生徒目線」という言葉

[県立 H 高等学校 情報] 氏名：T.T

◆最も心に残った言葉

私が教育実習期間中で最も心に残った言葉は『生徒目線』という言葉です。私の2週間の実習期間は常にこの言葉と共にありました。

実習前の事前打ち合わせの際に、ホームルーム指導と教科指導のどちらとも担当していただいた先生から私はこんな言葉を言われました。

「授業の進め方や教育に関する知識に対しては、Tさんは十分学校で学んでいると思います。なのでこの2週間の間でTさんに学んでほしいことは『実際の生徒に教える』ということです。実際の高校生がどんなことを考えて、どんな生活を送っているのかということ、教師としてだけではなく『生徒目線』で考えてもらいたいです。」

この言葉を聞いた時には私はその『生徒目線』はさぞ実際の教育現場で重要なことなのだろう、という予想はしましたが、口で言う何倍も実行することが難しいということまでは分かっていませんでした。

◆苦勞したこと

私が教育実習で苦勞したこともまた、『生徒目線』という言葉に関わることでした。

私はかねてからボランティア活動などで実際に高校生に情報科の授業を教える機会に恵まれており、故に教科指導や人前で話すことに関して厳しいご指摘を頂く、ということはそれほどありませんでした。そのため苦勞したことの記憶として色濃く残っている出来事はいずれも生徒との関わりの間にある出来事でした。

私が教育実習で苦勞したことは大きく分けて2つあります。

一つ目は実際に授業をする時、常に生徒の反応をみながら授業をするということです。

実習生としての私は「きちんと授業を授業案通りに成功させること」という課題に目が向きがちで、それが生徒たちによりよい授業を提供する上で大きな障壁となっていました。時間内に、授業案に書いたこと全てを終わらせようと必死になって、生徒に向かって話しかけていても常に自分の中に関心事を寄せていました。指導担当の先生が仰ることには「Tさんはもっと『生徒が今どんなことを考えて授業を聞いているんだろう』ということを考えながら授業するべきだ」ということでした。ただ前を見て話すのではなく、どうせ生徒の方を向いて喋るのなら生徒の様子を観察しながら授業するべきだというアドバイスに頷いて、早速実行しようと決めましたが、なかなか上手くはできませんでした。

このため私はまず、時間を気にしすぎる癖を治そうと思いました。それは教科指導の先生方から「授業案通りの授業を行うことよりも、一つでも生徒の中に確実な知識を植えこむことが重要」「何事も余裕を持って行うべき」「次の説明を行おうとして時間が不安になるぐらいなら、いっそ説明するのを諦めてその時点で授業の進行を終えてしまう方が良い」というようなご指導を頂いたからです。

結果として『時間を気にしすぎない』ということを中心に掛けるだけで、少しずつ生徒に目を向けることができるようになりました。それは時間を気にしすぎないことで、常に焦っている状態から解放される

ことができたからです。2週間だけの実習生ということで、生徒の情報を全て頭に入れることは不可能ですし、未経験が故に授業をする中でも不安要素は沢山ありますが、そういった不安要素を少しずつ克服していき、心にゆとりを持って授業を行うことで生徒の反応を見ながら授業をすることができるようになるのだと学びました。

私が教育実習で苦労したことの二つ目は、教えたいことを取捨選択する必要があるということです。

大学の模擬授業では年間カリキュラムや授業数のことには気を使うことなく、教えたいことだけを時間の許す限り話し続ければ良い授業でした。1時限丸々を使って教科書1ページ分の説明をすることにも何の支障もありませんでした。しかし実際の教育現場では教える内容があらかじめ決まっています。私の実習校では毎時限後半の25分程度をPhotoshopの実習に当てることが決まっていたので、毎回教科書の3~5ページ程度を25分以下の時間で話すことが求められました。

従って、話す内容はかなり制限されます。しかし教科書に載っていることはどれもこれも生徒に学んで欲しいことばかりです。そのジレンマを抱えて授業案作りや授業での進行に悩む私に先生が仰ってくださった言葉は、また『生徒目線』というキーワードに深く関わる言葉でした。

「一番教師がやってはいけない授業は『独りよがり』な授業です。Tさんが『生徒にこういうことを学んで欲しい』と考えるのはすごく大切なことだけれど、でもそれは結局Tさんだけの意思でしかないでしょう。最終的には目の前にいる生徒にとって最も優先順位が高く、かつ生徒が興味を持って学びに参加してくれそうな題材を考えなければいけません」

生徒のことを考えての行動が『独りよがり』と評されたことは衝撃的でしたが、同時に先生の言葉に深く納得しました。自分が生徒だったらいくら大切なことを沢山並べられていたとしても、内容が多すぎて頭に入ってこない授業よりは余程、学ぶことは少ないけれど簡潔に纏められていた授業の方が良いと思うからです。

同時にこれは教育現場のみならず、全ての対人コミュニケーションにおいて通用することだと思いました。自分の意思はあくまで独りよがりではない、という考え方は今後も忘れずにいたいと思います。

◆まとめ

この他にも様々な経験を通じて、たった2週間ながらも『生徒目線』という言葉が教育現場においてどれほど大切なことなのかを私は知ることとなりました。

例えば指導教諭の先生の授業を参観して感じたことは『教師が生徒“と”授業を作ることができる』ということでした。教師が生徒に授業を提供していくのではなく、教師が生徒を巻き込んで授業を完成していく形こそが生徒目線の授業を行うということの到達点なのだと思います。

たった2週間の教育実習期間では私はそれを習得することはできませんでしたが、これからも少しずつ経験を積んでいき、常に生徒目線で考えた授業計画、授業展開、授業進行を通じて、いずれは指導教諭のような授業ができれば良いなと感じました。

以上